

令和2年産 J A 米コシヒカリ栽培こよみ

●射水市農業技術者協議会
●射水市 ●JAいみず野
●富山県高岡農林振興センター

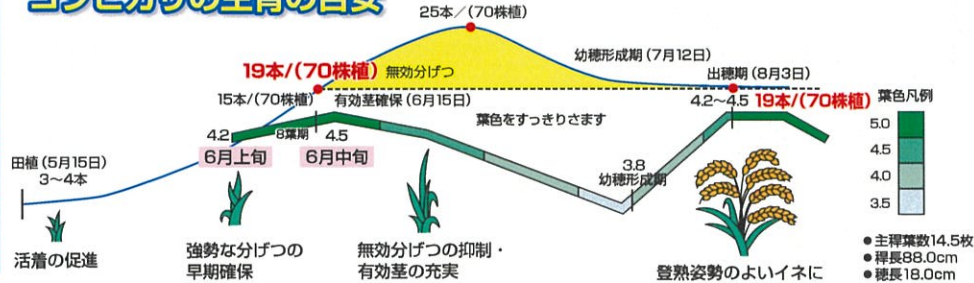
収量構成の目安

収量 540kg/10a
 〃
 m²当穂数 400本
 ×
 1穂着粒数 70粒
 ×
 千粒重 22.5g
 ×
 登熟歩合 87%

最重点技術項目

- 5月15日中心の田植え
- 健苗育成
 - ①育苗日数18~20日
 - ②温度管理・換気の徹底
- 70株植・植付深さ3cm
- 初期茎数の早期確保
- 田植後1ヵ月までの中干し
- 出穂から20日間の湛水管理

コシヒカリの生育の目安



消費者に喜ばれる米づくりを!!

- ①品質を重視した米づくり!
1等米比率95%以上を目指そう!
- ②消費者に信頼される米づくり!
全量種子更新!
栽培記録の徹底!
農薬の安全使用基準の遵守!
富山県適正農業規範(とやまGAP)の実践!

	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月				
生育ステージ		播種期	育苗期	活着期	有効分げつ期	無効分げつ期	幼穂形成期	穂ばらみ期	出穂期	登熟期	成熟期	
水管理				深水 水深5cm	浅水 水深3cm	深水 (除草剤散布の場合)	中干し 幼穂形成期まで足跡深さ3cm以下に固める	間断かん水	幼水管理 幼穂形成期以降	出穂後20日間は湛水状態 水深3cm	間断かん水 刈取7日前まで	
管理作業	土壌改良資材施用	浸種 (4/16)	播種 (4/25-27)	育苗 育苗期間は18~20日 (5/15)	田植 (5/15)	溝掘り (6/1)	中干し(溝の手直し) (6/12)	一斉草刈り (7/1)	出穂7日前の 葉色の確認 (7/27頃)	1回目防除 (出穂直前) (7/31頃)	2回目防除 (穂揃期) (8/7頃)	落水 刈り取り 秋耕・土壌改良 資材施用

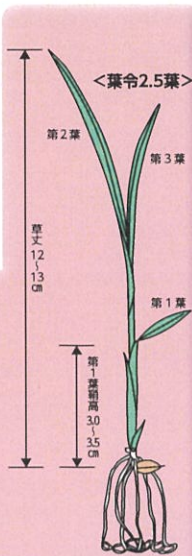
品質向上のための対策ポイント

対策1 土づくり ~異常気象に対応~

- ①土壌改良資材の散布
・土壌に不足する成分を補うため、粒肥資材100kg/10a施用。
- ②深耕し
・現状より3cm深く耕起し、作土層は15~18cm以上を確保する。
- ③有機物の施用
・稲わら、籾殻は全量すき込む。
・緑肥を活用する。(大豆耕作のヘアリーベッチ、大麦跡のクロクラリア)
- ④畦づくり・畦めり
・水漏れ防止と20日間湛水に備えた畦の高さの確保。

対策2 健苗育成 ~田植日に応じた育苗管理~

- ①種子
・消毒済みの種子を使用する。十分浸種し、雑草を揃える。
・消毒効果が高めるため、浸種始めから2~3日間は水を交換しない。
- ②播種
・4月25~27日に播種する。播種量 乾粒120g/箱の徹底
・育苗施設 エアーゴルドプラス箱粒期を推奨 (農協から購入する苗は農薬済み)
- ③育苗管理
・播種翌日から田植日までの日数は18~20日。
(長くなると、初期分げつが取れにくく、穂数が不足します。)
・ハウス搬入直後は、被覆資材を活用する。
・気象状況に応じた適切なかん水、ハウスの換気を徹底し、ヤケ苗や病害の発生を抑える。



対策3 高温登熟の回避 ~5月15日中心の田植え~

- ①田植日は5月15日を中心に行う
- ②直播の導入・拡大
・田植時期を遅らせたのと同様の効果があります。

対策4 初期茎数の早期確保 ~しっかりとした良質な穂につなげる~

- ①栽植株数70株/坪
- ②植付本数は3~4本/株、植付深さは3cm
- ③基肥施肥量の遵守

地域	肥後農協		分指(全農)	
	Jコートコシヒカリ2号 (田植同時・別米)	基肥206	(田植前)	(田植直後)
大門・大島	28~30		20~30	10~15
浅井	30			
小杉	28~30			
大江	28		10~15	10
下	28			
新渡・塚原	28~30		15	10
高田・白土・七瀬・本江・岡崎・海北	28			

- ④田植後の適正な水管理の徹底
・活着促進の早朝かん水、日中止水による湛水管理の実施。
- ⑤除草剤の適正使用
・適期を逸さず、遅れず散布する。
・田植同時で散布する場合は、葉着軽減のため軟弱苗には使用しない。

対策5 適正生育への誘導 ~田植後1ヵ月までの中干しの徹底~

- ①田植後1ヵ月までの中干し
・6月上旬までの軽い田干しと湛りの実施
・畦地における手溝増設
・適期中干し開始で弱小分げつ抑制と根の伸長促進



大妻予定田では中干しを徹底し、ほ場を固めましょう。

- ②中干し後の間断かん水の徹底、スムーズな収穫作業に向けた地固め(7月14日頃まで足跡深さ3cm程度に固める)
- ③幼穂形成期の葉色は3.8へ誘導

対策6 病害虫防除の徹底 ~適期に必ず実施~

- ①大妻あそば場の活用および雑草処理
- ②一斉草刈りによりカメムシの密度を抑制する
- ③2回の本田基本防除を確実に実施
・1回目 ヒムスターク粉剤50L
・2回目 ラブサイドキラップ粉剤0L
・防除の間隔は10日以上あけない。

対策7 登熟期間の稲体活力向上 ~生育に応じた追肥と水管理の徹底~

- ①生育状況を確認して的確な追加施肥を施用(穂揃期葉色4.2~4.5)
・肥効調節型基肥の場合…出穂7日前の葉色が4.0以下(砂土4.2以下)と、さめているほ場は、出穂3日前までに追肥する(窒素量が0.7~1.0kg/10a)
・分指ほ場の施肥目安…[1回目]幼穂長15cm時に慎重に施用
[2回目]1回目の7日後に確実に施用
- ②幼穂形成期から出穂までは湛水管理(足あとに水が残る程度まで減った水を足す)
- ③出穂から20日間は湛水管理を徹底(田面が出ないよう水深3cmを保つ)
- ④刈取7日前までの間断かん水の実施(足あとの水が無くなった水を足す)

対策8 適期刈取の徹底 ~胴割粒の発生防止~

- ①積算温度1000~1050℃、
初稔化率85~90%での適期収穫
※高年産の場合は、積算温度950℃、初稔化率90%で刈り始める。



刈取適期 (初稔化率85~90%)



◎カントリーの利用を拡大し、米の販売を有利に進めよう!!